

2006 年度学生自治会執行部活動総括

2006 年度学生自治会執行部
委員長 今井 英貴

2006 年度は活動方針として部・サークルとの連絡体制の強化や、各外局（体育常任委員会、音楽芸術団体連合会、緑丘祭実行委員会、ゼミナール協議会）との連携の強化、学生からの意見を多く求めることを目標に掲げ、活動を行ってきた。更に 2006 年度の活動においては、学生自治会の活動内容をより知ってもらうことを目的とした広報活動も行った。しかしながら、それらについての活動が十分行えたとは言えない。学生自治会は認知度向上を計った上で、活動を行う必要性を強く感じた。

また、2006 年度学生自治会は限られた人数の中で活動を行ってきた。もちろん、学生自治会役員の中で全ての活動を行うことはできず、多くの方々の協力と支援があったなかで 2006 年度を乗り越えてきた。それを考えても各外局および部・サークルとのより強い連携と連絡体制を整えることが、今後も重要となるのは間違いない。

以下にて、2006 年度学生自治会執行部の活動をまとめる。

1. 意見募集の強化

2006 年度では意見募集の強化を目指した。そこで気がついたことは、学生自治会の活動内容について、理解をしていない学生があまりに多くいることだ。我々の活動は入学と同時に納めてもらう“自治会費”を活用しながら行っている。それにも関わらず、学生自治会の活動について理解をしていない学生が大勢存在することは、決して無視できない問題である。一般学生から自治会費が何に活用されているのかをよく理解されないまま、学生自治会が決して少額ではない自治会費を集めることがあってはならない。

また、学生自治会の活動内容を知らずに、意見募集を行うこと自体にも無理がある。活動内容を十分浸透させることで、初めて意見募集の効果が発生するのではないだろうか。2006 年度に開催した自治会研修において一般学生の募集を行ったにも関わらず参加者が確保できなかったのは、学生自治会の活動内容

がよく理解されていなかったことも要因の一つだろう。

2007 年度においては引き続き意見募集を行うのはもちろん、一般学生に対して自治会の活動内容についての周知徹底を図る必要がある。

2. 広報活動の改善

2006 年度の活動の一つとして、広報誌や掲示物の改善を行った。広報誌については、毎回発行される内容が型にはまる傾向にあり、その改善をすべきとの意見が内外からあった。そこで、毎号の広報誌において行事の開催説明・報告等とは別に各外局へ記事の依頼を行い、各外局の広報誌担当者それぞれが“商大生”としての目線で読んでみたい記事、知りたい情報を考えて記事作成するというページを設け、より学生が手に取りたいと思う内容づくりを心掛けた（例：リソグラフ・拡大コピー機の使用方法、JRで座る方法等）。しかし、アンケート回収率は決して多くはなく、その変化が即時に反映されたとは言えない。今後もこのような広報誌における内容の改善を行っていく必要があるようだ。

掲示物に関しては、2006 年度では内容を以前より目に付きやすいようにするため、拡大を行ってから貼り出すように心がけた。また、行事ごとの注意事項についてもより多くの情報を知らせるようにした。

しかし、連絡事項等についての掲示物の張り出しはもっと積極的に行うべきだったと振り返る。最終的に新歓の連絡事項の張り出しが遅れてしまったことが心残りであった。そして、そのような掲示による連絡方法に依存してしまったことも、反省点である。

2007 年度においては、連絡事項がある場合、掲示を素早く行うのはもちろん、掲示のみに頼ることなく各種連絡方法（ビラ・連絡表等）を十分活用しなくてはならない。

3. 部・サークルとの連絡体制・連携の強化

2006 年度では新たに、各外局の所属団体である部・サークルの部長または主将の連絡先を集めた。それによって、従来掲示板や連絡ボックス、および各外局の代表からの間接的な連絡方法に頼っていた緊急時の連絡を、直接かつ迅速に伝えることが可能となった。

2006 年度におけるこの点の反省としては、上記 2 でも述べたが、新歓の際

の連絡体制がある。活動時期が2月以降の新歓直前に集中してしまうため、他の多くの作業をしているうちに行事に関する連絡事項を掲示板による告知や、各外局の代表者から部・サークルへの間接的な連絡方法に頼ってしまう傾向があった。2007年度においてはこの点を改善し、より細かな情報内容の告知を努めなくてはならない。

4. 自治会費の納入方法・未納問題について

2006年度では学生自治会費の納入方法を学生自治会、緑丘会、大学生協の3団体による会費の一括納入を試みた。これに関しては、開始一年目ということもあり、納入率への影響を正確に捉えることは難しい。2007年度も継続することによりその推移を観察し、それ以降の自治会費納入方法を定めるべきだろう。

自治会費の未納問題を解決する課題としては1の中でも述べたが、学生自治会の活動内容についてもっと広く知ってもらふ必要性を感じた。活動内容の周知により自治会費が何に使われて、なぜ自治会費を納めなくてはならないのかを伝えなくてはならない。

この一年間の活動で、解決すべき課題は多く見つかった。2007年度では、それらの課題の解決に努める。

2006年度 学生自治会執行部決算報告

(2006.5.1～2007.4.30)

収入	金額	支出	金額
前期繰越金	¥2,357,260-	自治会執行部及び外局	¥8,883,388-
新入生自治会費	¥9,360,000-	執行部運営費	¥1,039,388-
編入学生自治会費	¥60,000-	事務局費	¥659,655-
二年目以上自治会費	¥120,000-	学内行事費	¥142,846-
郵便利息	¥1,721-	補助予算	¥236,887-
銀行利息	¥84-	体育会	¥3,895,000-
以下余白		音芸連	¥1,480,000-
		緑実委	¥2,469,000-
		誤納返還金	¥24,000-
		自治会費返却	¥12,000-
		協議会	¥160,000-
		自治会補助	¥276,250-
		次期繰越金	¥2,543,427-
合計	¥11,899,065-	合計	¥11,899,065-

※ 支出の部の自治会費返却とは、他大学に編入する生徒へ3年分の年会費を返却したものである。

2007年4月30日

小樽商科大学学生自治会執行部

委員長 今井 英貴

会計 新谷 友里絵

2006年度 執行部運営費内訳

(2006.5.1～2007.4.30)

★事務局費

事務用品費	¥41,143-
通信費（郵便）	¥5,200-
電話代	¥61,650-
リソグラフ・コピー・ ポスタープリンタ代	¥516,915-
広報費	¥34,747-
<hr/>	
事務局費合計	¥659,655-

★学内行事費

新歓実行委受験生応援	¥35,387-
新歓実行委新歓行事	¥107,459-
<hr/>	
学内行事費合計	¥142,846-

★補助予算

遠征費補助	¥236,887-
漕艇部	¥6,600-
漕艇部	¥29,700-
水泳部	¥32,319-
漕艇部	¥33,000-
漕艇部	¥9,900-
漕艇部	¥6,600-
漕艇部	¥16,500-
弓道部	¥29,216-
ヨット部	¥15,216-
ヨット部	¥39,800-
水泳部	¥18,036-
保険費補助	¥0-
	¥0-
学内行事費補助	¥0-
	¥0-
<hr/>	
補助予算合計	¥236,887-

2007年4月30日

小樽商科大学学生自治会執行部
委員長 今井 英貴
会計 新谷 友里絵

2006年度 学生自治会補助決算報告

(2006.5.1～2007.4.30)

収入	金額	支出	金額
自治会補助 以下余白	¥276,250-	パソコン修理代 ゼミナール紹介本	¥26,250- ¥250,000-
合計	¥276,250-	合計	¥276,250-

2007年4月30日

小樽商科大学学生自治会執行部
委員長 今井 英貴
会計 新谷 友里絵

平成 19 年 5 月 24 日

小樽商科大学学生自治会執行部
委員長 今井 英貴 殿

会計監査人 吉田 源
川端 祐佳子
川田 泰章

監査報告書

監査の概要

私達は、2006 年度における決算報告に関する監査を実施した。この監査にあたって、私達は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を実施した。

監査の意見

監査の結果、学生自治会の採用する会計処理の原則及び手続きは、一般に構成妥当と見られる会計基準に準拠し、かつ前年度と同一の基準に従って継続して採用されている。

よって、私達は 2006 年度決算報告が適正であるものと認める。

学生自治会との利害関係

学生自治会と私たちの間には利害関係はない。

2007 年度学生自治会執行部活動方針

2007 年度学生自治会執行部
委員長 今井 英貴

2006 年度活動における問題点であった、一般学生に対する学生自治会の活動内容をより広く伝える状況を作り出すため、2007 年度は広報誌・掲示活動を効果的に利用し、活動を行っていく。

延いてはそれらが学生自治会と各外局や部・サークルとの連携の強化、また自治会費未納問題や学生自治会内部における意識の向上につながることを期待する。

1. 学生自治会活動内容の広報

2006 年度学生自治会執行部総括でも述べたが、学生自治会の活動内容について、一般学生の間で伝わっていないことを昨年度は強く感じた。我々の活動内容に対する理解の希薄さこそが、自治会費未納問題の発生や、自治会の活動に対して意見が活発に出てこない要因の一つだろう。

そこで 2007 年度は、一般学生の間で学生自治会活動内容を浸透させることを目標に活動をせねばならない。自治会費を納めている一般学生に対して、自治会活動の内容をわかりやすく伝えることが我々にとって義務でもある。

部・サークルに対してもその宣伝効果を期待する。学生自治会の活動内容の更なる理解により、後の 3 で述べる“更なる各外局、部・サークルとの連絡・協力体制の強化”にもつながるからだ。

2. 自治会費未納問題への対処

本学の学生は入学時に学生自治会員となり、全員が自治会費を納める義務がある。しかしながら、例年自治会費の未納問題が取り上げられているのが現状だ。そのような自治会費未納問題に対して、2007 年度については上記 1 でも述べたが、学生自治会活動内容の理解の浸透を目的とする広報活動へ力を注ぎ、自治会費の用途が受験生応援や新歓活動から、部・サークルに対する配分金、更にはゼミナール協議会が発行するゼミナール紹介本や、自治会室にあるリソグラフの管理にも活用されているなど、詳しい説明活動を行い、自治会費納入の必要性を伝える。

また、2007 年度も例年行っている自治会費未納者に対しての学内での掲示や、郵送による自治会費納入を促す。加えて各外局に所属する部・サークルの部員名簿提出によって更なる納入率の向上を行う。そして特別な事情のある学生に対しては、例年どおり個別相談に応じる。

3. 更なる各外局、部・サークルとの連絡・協力体制の強化

2006 年度に行った、部・サークル代表者連絡先一覧の提出は緊急時の連絡等で大きな効果があった。そこで 2007 年度についても継続して連絡先の回収を行う。2007 年度は行事連絡などの連絡体制を、以前から行っていた間接的な方法（各外局の代表からの伝達、掲示利用）に加えて、重要な行事ルールなどについては直接学生自治会から各部・サークルへ連絡内容が伝わっているかを最終的に確認する、2 段階での連絡体制の確立を検討する。これによって、正確な情報が伝わり、直前になっての混乱を防げるだろう。

4. 学生自治会内部の意識向上

学生自治会執行部は執行部委員会の役員他、各外局（体育常任委員会、音楽芸術団体連合会、緑丘祭実行委員会、ゼミナール協議会）の代表と会計から構成されている。様々な所属からなる我々にとって重要となるのは、各役員が自治会の活動についてのより深い理解と、自治会役員としての自覚や責任感を明確に持つことである。我々の活動は、多くの行事における企画・進行や、一般学生に対して遵守させなくてはならないルールなどを決めることだ。自治会役員が自分たちにこのような大きな責任があることを意識せずに活動を行い、全体を統率できるはずがない。

意識向上の解決策として、行事や各種決め事に対する話し合いの場を現在より多く設ける。また、行事の進行についての説明・確認を確実にを行い、自治会役員の理解を深める。それによって活動への参加を積極的に行い、一つの目的に対して全員で取り組む姿勢をつくりあげる。学生自治会役員は責任ある立場として、行事活動などでは先頭に立って活動をしなくてはならない。

以上が学生自治会執行部における 2007 年度活動方針である。学生生活の更なる向上を目指し、2007 年度も活動を行っていく。

2007年度 学生自治会執行部予算案

(2007. 5. 1～2008. 4. 30)

収入	金額	支出	金額
前期繰越金	¥2,543,427-	自治会執行部及び外局	¥9,206,000-
自治会費	¥9,504,000-	執行部運営費	¥1,470,000-
新入生自治会費	¥9,440,000-	事務局費	¥755,000-
編入学生自治会費	¥24,000-	学内行事費	¥215,000-
二年目以上自治会費	¥40,000-	補助予算	¥420,000-
以下余白		直伝作成費	¥30,000-
		予備費	¥50,000-
		体育会	¥3,925,000-
		音芸連	¥1,400,000-
		緑実委	¥2,411,000-
		協議会	¥160,000-
		自治会補助	¥2,681,427-
合計	¥12,047,427-	合計	¥12,047,427-

事務局費内訳	
事務用品	¥60,000-
電話代	¥70,000-
通信費(電話代除く)	¥5,000-
リソグラフ・コピー	
ポスタープリント	¥570,000-
広報費	¥50,000-
事務局費合計	¥755,000-

学内行事費内訳	
受験生応援	¥40,000-
新歓行事	¥175,000-
学内行事費合計	¥215,000-

2007年5月24日

小樽商科大学学生自治会執行部
 委員長 今井 英貴
 会計 新谷 友里絵

第60期体育常任委員会活動総括

第60期体育常任委員会
会長 横田 祥一

第60期体育常任委員会（以下体育会）は「勧誘活動の強化」「体育会知名度の向上」「役員の意識向上」を方針として活動してきた。

勧誘活動の強化

その気のない人をいかにその気にさせるかということテーマに掲げた。去年から始めたお食事会スケジュール表の作成に加え、皆さんにアンケート（部活動に参加して良かった点、魅力を感じた点）に協力していただき、その結果を確実に新入生の目に触れる形で配布することで興味をあおる計画を実行した。大きな効果は得られなかったが、現状維持という最低の基準は満たすことが出来た。以下が平成18年9月時点でのサークル加入状況である。

	性別	学生数	加入者数	加入率 (%)	内訳			
					体育会	加入率	文化系	加入率
1年目	男性	307	183	59.6	154	50.2	29	9.4
	女性	234	126	51.9	113	46.5	13	5.3
2年目	男性	385	244	63.4	171	44.4	73	19.0
	女性	208	154	74.0	118	56.7	36	17.3
3年目	男性	329	175	53.2	122	37.1	53	16.1
	女性	223	110	49.3	75	33.6	35	15.7
4年目	男性	400	181	45.3	124	31.0	57	14.3
	女性	300	113	37.7	63	21.0	50	16.7
計		2395	1286	53.7	940	39.2	346	14.4

体育会知名度の向上

体育会がどのような組織なのかを一部でも知ってもらうために、イベント（スポーツ大会、結コン、若者合宿）の開催日時を早めに連絡し、一人でも多くの人が予定を空けてくれるよう努めた。この意図が達成されたのか、参加者が倍増したものもあった。知名度の向上とまではいかなかったかもしれないが、多くの人にイベントを体験してもらえたことはうれしく思う。今後は事前、事後にアンケートを採るなどしてより良いイベントを開催し、「小樽商科大学体育会」の名が学内全体に認知されることを願う。

役員意識向上

役員に対しなるべくたくさんの説明を行うことで疑問を少なくすることを心がけた。昨年前期のミーティング出席率は軒並み高かったものの役員の引継ぎが行われたと思われる後期からは欠席が目立つ役員もいて、改善していくには引継ぎの時期を統一し、その直後に研修を行うなどのことが必要だと感じた。また、ミーティングに参加している役員でも内容をきちんと部に伝えているのか疑問に感じる場面があった。これからは役員だけでなく各主将とも連携を密にしていくことを考えるべきかもしれない。

あらためて一年を振り返り感じたことは、体育会により魅力が求められているのではないかということである。たくさんの人にイベントに参加してもらうためにはもちろんだが、現在は役員がその役割を果たす際に、個々人の意識やモラルに委ねるしかない状態であり、それに影響を与えるためにも不可欠な要素だと思うからだ。第61期会長のもと役員はもちろん各部・サークルが協力しあって体育会の発展を目指し、最善を尽くして欲しい。

以上をもって第60期体育常任委員会活動総括とする。

2006年度 体育常任委員会決算報告書

(2006.5.1～2007.4.30)

収入		支出	
前年度繰越金	¥56,738-	<総務部>	
自治会配分金	¥3,895,000-	サークル配分金	¥3,230,000-
『緑陵第24号』協賛金	¥82,000-	『緑陵第24号』印刷費	¥655,200-
L.A.参加費	¥194,000-	『緑陵第25号』作成費	¥0-
若者合宿参加費	¥192,000-	事務費	¥4,392-
結団コンパ参加費	¥161,100-	通信費	¥5,915-
体育会研修参加費	¥0-	○総務部合計	¥3,895,507-
郵便利息	¥87-	<事業部>	
以下余白		フットサル大会	¥15,000-
		ドッジボール大会	¥0-
		バレーボール大会	¥0-
		○事業部合計	¥15,000-
		<競技部>	
		L.A.	¥142,609-
		体育会大賞	¥19,254-
		結団コンパ	¥157,663-
		体育会研修	¥0-
		受験生応援	¥4,892-
		○競技部合計	¥324,418-
		○若者合宿	¥217,429-
		○次期繰越金	¥128,571-
収入合計	¥4,580,925-	支出合計	¥4,580,925-

2007年4月30日

第60期体育常任委員会

会長 横田 祥一
 会計 浜崎 慎二

2006年度 サークル配分金内訳

合気道部	¥103,900-
アメリカンフットボール部	¥130,900-
空手部	¥69,400-
弓道部	¥112,900-
剣道部	¥93,600-
硬式庭球部	¥221,900-
硬式野球部	¥138,100-
ゴルフ部	¥94,600-
サッカー部	¥85,400-
柔道部	¥43,400-
準硬式野球部	¥94,100-
女子バスケットボール部	¥58,400-
水泳部	¥94,900-
基礎スキー部	¥147,400-
漕艇部	¥276,000-
卓球部	¥55,000-
男子バスケットボール部	¥134,900-
トランポリン競技部	¥173,000-
軟式庭球部	¥134,600-
羽球部	¥101,100-
バレーボール部	¥87,900-
ハンドボール部	¥93,300-
ヨット部	¥219,500-
ラグビー部	¥170,800-
陸上競技部	¥167,600-
ワンダーフォーゲル部	¥90,600-
女子ハンドボールサークル	¥18,400-
チアダンスサークル	¥18,400-
合計	¥3,230,000-

第61期体育常任委員会活動方針

第61期体育常任委員会

会長 石上雄介

今年度の体育会は「女子部活の活性化」「体育会知名度の向上」「役員意識の向上」を基本方針として掲げる。

・女子部活の活性化

近年、体育会の部活・サークルに加入する学生数には減少傾向がみられ、部員不足に悩む団体も少なくない。昨年同様、部活・サークルに入部するか否か迷っている学生を入部させることをテーマに活動していく。

メインターゲットは、女子学生である。大学で部活をするつもりで全く無い女子も、もちろんいるだろうが本大学にはクラス制度が無い為、本当は部活に入りたかった(しかし入らなかった)。もしくは、マネージャーをやっているうちに自分がプレーしたくなった、という女子学生は多くいるはずである。

しかし、「女子もプレーヤーとして活動出来る部・サークルが少ない」「マネージャーが飽和状態」「女子サークルの活動が不安定」といった点が“環境要因”となって女子学生の加入率は伸び悩んでいる。また、女子のサークルは、部活になれず十分な補助が受けられない為、その活動自体が制限され不安定な状況であった。

そこで今年度は「女子ハンドボールサークル」と「チアリーディングサークル」を部活に昇格させて活動を補助し、女子部活の安定化・活性化に努める。部活として安定させることで負担を緩和し、入部者が継続して活動しやすい部活作りをサポートする。そして今後、女子部活の活動がしだいに活発化し、周囲の女子学生の運動欲求も徐々に高まることを期待し、女子の新サークル発足を将来的に望む。そこで今年は、広告を通じた女子サークルの設立奨励を強く行っていく。

もちろん、男子に混ざって女子のプレーヤーと一緒に活動する部活もある。しかし特に「女子だけのサークル」への対処が今後、女子学生加入率の向上に直結すると考えた為、「女子だけのサークル」に焦点を絞って話をさせてもらった。

・体育会知名度の向上

体育会行事(結コン、スポーツ大会、若者合宿、LA)の開催日時・詳細などの連絡や掲示時期を早めて事前に予定を空けてもらい、より多くの人に参加してもらえるようにする。

スポーツ大会については「春のスポーツ大会」「秋のスポーツ大会」と題し、今後毎年的好例行事化とすることで、大会の認知度自体も高める。スポーツ大会自体は年4種目開催する。

また、こうしたイベントの告知方法は“ポスター”に頼らざるを得ない為、ポスター製

作には昨年以上の注目と期待を集められる趣向を凝らす。

・役員意識の向上

一向に改善が見られず、体育会の中で最も叫ばれている課題である。

粗大ゴミが投棄され荒廃していた体育会室を大清掃し、役員が気軽に立ち寄れる環境整備を行い、居心地の良さ・親近感を持たせることから改善に取り組むこととする。

また、役員の部署(事業、競技、総務、管理)配属を再度行い、各役員に自分の所属部署を認識させることで、役員意識の芽生え・向上を求めていく。そうした上で各役員に仕事を分配し、仕事の達成感から更なる役員意識作りを目指す。

、の方針は前年度から始まった「体育会改革3年構想」の2年目であり、今年はある程度の結果が見込まれる。の方針については長期的な活動となる為、次代の後継者に継続して行ってもらおう。

2007年度体育常任委員会予算案

(2007.5.1～2008.4.30)

収入	支出																																										
前年度繰越金	¥128,571-																																										
自治会配分金	¥3,925,000-																																										
「緑陵第25号」協賛金	¥77,000-																																										
L. A参加費	¥194,000-																																										
体育会研修参加費	¥5,000-																																										
若者合宿参加費	¥192,000-																																										
結団コンパ参加費	¥160,000-																																										
以下余白																																											
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"><総務部></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サークル配分金</td> <td style="text-align: right;">¥3,250,000-</td> </tr> <tr> <td>「緑陵第25号」印刷費</td> <td style="text-align: right;">¥660,000-</td> </tr> <tr> <td>「緑陵第26号」印刷費頭金</td> <td style="text-align: right;">¥50,000-</td> </tr> <tr> <td>事務費</td> <td style="text-align: right;">¥10,000-</td> </tr> <tr> <td>通信費</td> <td style="text-align: right;">¥7,000-</td> </tr> <tr> <td>○総務部合計</td> <td style="text-align: right;">¥3,977,000-</td> </tr> <tr> <td><事業部></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フットサル大会</td> <td style="text-align: right;">¥20,000-</td> </tr> <tr> <td>スポーツ大会</td> <td style="text-align: right;">¥15,000-</td> </tr> <tr> <td>ドッチボール大会</td> <td style="text-align: right;">¥15,000-</td> </tr> <tr> <td>○事業部合計</td> <td style="text-align: right;">¥50,000-</td> </tr> <tr> <td><競技部></td> <td></td> </tr> <tr> <td>L. A</td> <td style="text-align: right;">¥194,000-</td> </tr> <tr> <td>体育会大賞</td> <td style="text-align: right;">¥30,000-</td> </tr> <tr> <td>体育会研修</td> <td style="text-align: right;">¥5,000-</td> </tr> <tr> <td>結団コンパ</td> <td style="text-align: right;">¥160,000-</td> </tr> <tr> <td>受験生応援</td> <td style="text-align: right;">¥10,000-</td> </tr> <tr> <td>○競技部合計</td> <td style="text-align: right;">¥399,000-</td> </tr> <tr> <td>○若者合宿</td> <td style="text-align: right;">¥192,000-</td> </tr> <tr> <td>○予備費</td> <td style="text-align: right;">¥63,571-</td> </tr> </table>	<総務部>		サークル配分金	¥3,250,000-	「緑陵第25号」印刷費	¥660,000-	「緑陵第26号」印刷費頭金	¥50,000-	事務費	¥10,000-	通信費	¥7,000-	○総務部合計	¥3,977,000-	<事業部>		フットサル大会	¥20,000-	スポーツ大会	¥15,000-	ドッチボール大会	¥15,000-	○事業部合計	¥50,000-	<競技部>		L. A	¥194,000-	体育会大賞	¥30,000-	体育会研修	¥5,000-	結団コンパ	¥160,000-	受験生応援	¥10,000-	○競技部合計	¥399,000-	○若者合宿	¥192,000-	○予備費	¥63,571-
<総務部>																																											
サークル配分金	¥3,250,000-																																										
「緑陵第25号」印刷費	¥660,000-																																										
「緑陵第26号」印刷費頭金	¥50,000-																																										
事務費	¥10,000-																																										
通信費	¥7,000-																																										
○総務部合計	¥3,977,000-																																										
<事業部>																																											
フットサル大会	¥20,000-																																										
スポーツ大会	¥15,000-																																										
ドッチボール大会	¥15,000-																																										
○事業部合計	¥50,000-																																										
<競技部>																																											
L. A	¥194,000-																																										
体育会大賞	¥30,000-																																										
体育会研修	¥5,000-																																										
結団コンパ	¥160,000-																																										
受験生応援	¥10,000-																																										
○競技部合計	¥399,000-																																										
○若者合宿	¥192,000-																																										
○予備費	¥63,571-																																										
収入合計	¥4,681,571-																																										
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">支出合計</td> <td style="text-align: right;">¥4,681,571-</td> </tr> </table>	支出合計	¥4,681,571-																																								
支出合計	¥4,681,571-																																										

2007年5月24日

第61期体育常任委員会

会長 石上 雄介

会計 六沢 優太

2006年度音楽芸術団体連合会総括

第14代音楽芸術団体連合会
会長 近藤 雅之

我々音楽芸術団体連合会（以下音芸連）は昨年度、「役員の更なる意識向上」、「定例行事の改善」、「音芸連の知名度の拡大」、「クリーンキャンペーンの継続」を方針としていた。

1、「役員の更なる意識向上について」

多くの役員がミーティングや活動に参加してくれていたのだが、一部の役員の参加状況はあまり改善されなかった。役員全員に分担する仕事が多く、役員が積極的に活動する機会が少なかったために、役員としての自覚や責任感を高めることができなかったことが原因と思われる。対策として、ミーティングへの参加状況が良くない役員が所属するサークルの配分金を削減するといったペナルティを課すことが必要であった。

また昨年度はジンギスカンパーティーとクリスマスパーティーの二つの行事について、役員全員で企画に取り組むとしていたが、皆で協力することにより、役員同士の交流を深めることができた。

2、「定例行事の改善」について

「ジンギスカンパーティー、クリスマスパーティーについて、各サークルが交流を深めやすくするように、音芸連が席の配置を事前に決めておく」という方針を掲げていた。しかし、音芸連ミーティングで、参加者が減少してしまうのではないかと、盛り上がりなくなるのではないかとといった理由から反対意見が多かったので、昨年度もサークルごとに席を配置することになった。その結果、参加者数も多く盛り上がったが、サークル間の交流を深めるという目的は果たせなかった。

3、「音芸連の知名度の拡大」について

音芸連の知名度拡大のためにチラシ、ホームページによる広報活動の拡大を目標としていたが、チラシの配布、ホームページの更新ともに不定期であり、広報活動が足りなかった。広報担当との連携が足りなかったことが原因であったと思われるので、広報担当に定期的に広報を行うよう呼びかける必要があった。

またジンギスカンパーティーとクリスマスパーティーの広報活動にさらに力をいれ、これらの行事への一般の学生の参加を増やすというのも目標であり、ビラの配布、ホームページでの広報を行ったが、改善されなかった。広報だけでなく、もっと一般の学生も参加しやすくするための工夫が必要であった。

4、「クリーンキャンペーンの継続」について

各サークルに月ごとに割り当てて、毎月1回、サークル会館大練習室の清掃を行った。各サークル部員へのサークル会館使用マナー徹底の呼びかけは足りなかったため、今後の活動において呼びかけてほしい。大練習室は音芸連所属サークルが主に使用する場所なので、今後の活動においてもクリーンキャンペーンを継続してほしい。

5、定例行事について

・ジンギスカンパーティー

参加者数は88人で、場所は例年通り学生会館前で行った。去年よりは少ないが多くの人が参加していただき、盛り上がりもよかった。ただ、前述したように一般の学生の参加が少なかったため、一般の学生も参加しやすくするための工夫が必要であった。

・クリスマスパーティー

参加者数は77人で、場所はサークル会館大練習室で行った。こちらも多くの人に参加していただき、盛り上がりもよかったのだが、会場が狭い、椅子が足りないなどの意見が多かった。また料理を盛る皿が足りなく、各机に料理が平等にいき渡らなくなるといった事態も起こってしまったなどの反省点が多かった。

2007年度 音楽芸術団体連合会 方針

第15代音楽芸術団体連合会会長

高橋 慶太

今年度の音楽芸術団体連合会（以下音芸連）の方針として以下を定める。

- 1、各行事の成功と拡大
- 2、充実した調整会議
- 3、サークル会館の清掃

具体的には以下の通りである。

1、各行事の成功と拡大について

ここで指す行事とは主に新歓コンサート、ジンギスカンパーティー、クリスマスパーティーの3つの行事である。近年、新歓コンサートにおいては、その場所取りが問題であり、サークル会館大練習場での開催を余儀なくされている。大練習場での問題として、まず収容人数に限界があること、体育館よりも上に位置するため新入生が行きづらいこと、出入り口に関しても狭く、出入りしづらいこと等があげられる。これはクリスマスパーティーにも関連することである。よって、学校側との早めの交渉を行い、より良い場所での開催を図る。

ジンギスカンパーティーとクリスマスパーティーにおいては、意図として、普段は接点を持たないサークル同士の交流と一般学生に音芸連のことを知ってもらうことに重きを置いている。しかし例年、サークルごとの席になってしまい、目標を果たせていない部分が見受けられる。よって、席を何人ずつかで混ぜる等、来た人に任せるだけではなく、こちらとしても意図達成のため努力していく。また一般学生の来客数も少ないので、早めの期日と場所の設定を行い、広報活動も広告枚数を増やす、HP上の発表等、広く宣伝していきたいと思う。広報関連で、音芸連主催イベントに留まらず、各サークルの公演情報も発信、支援していく。

最後に、各行事のイベントの拡充を行い、最初から最後まで来てくれた皆が楽しめるような企画を展開していく。芸術系ということで、それに関連した企画を中心に行っていきたいところである。

2、充実した調整会議について

音芸連 MT で行われているサークル会館大練習場使用調整会議であるが、調整後に確認をするためには音芸連室か大練習場に行く以外に手段がないため、HP 上での掲載をしたい。また、音芸連所属以外のサークルも使用したい場合には参加してもらい、より開かれた調整会議にしていく。これは掲示を通して呼びかけていこうと思う。

3、サークル会館の清掃について

昨年度も方針として定められているが、正直なところ実践できていないのが現状である。よって、毎月1回交代制で大練習場を中心とした清掃を行いたい。理由としては、清潔に保つに越したことはなく、外からの来訪者もいるので綺麗にしておくのが、使用者側の務めでもあるからである。毎月1回ということであるので、内容としては徹底的な清掃を行いたいと思っている。以上の旨を各サークルに伝達し、協力を仰ぐ。

以上、今年度の音楽芸術団体連合会の方針である。これを主軸に、今年度も団結してさらなる音芸連の活性化を図っていく。

第 54 回緑丘祭実行委員会活動総括

第 54 回緑丘祭実行委員会

委員長 中村 幸穂

第 54 回緑丘祭は昨年の 6 月 30 日（木）から 7 月 2 日（日）の 4 日間という日程で開催された。当日は天候に恵まれ、用意した 2000 部のパンフレットをすべて配布しきった。300 枚用意したうちわは早々に配布しきったことにより、学生だけでなく小樽市民の集客が予想以上にあったと想定される。

第 54 回緑丘祭のコンセプトは「誰でも気軽に参加の出来る企画の増加」と「来客層の拡大」であった。

「誰でも気軽に参加できる企画」ということで、クロスワードパズルとスタンラリーという企画を行った。この二つの企画は土曜と日曜に行ったが、用意していた景品が土曜ですべてなくなり、急遽新しい景品を用意するほどの盛況であった。しかし、本部テントが景品の配布に追われて本来の業務が出来なかった部分もある。企画としては成功であったので、第 55 回ではこの部分を改善してさらによい企画にして欲しい。

また、「来客層の拡大」については、特に子供をターゲットにして、子供の参加できる企画として腕相撲と運動会の二つを行った。参加者もなかなか集まったが、企画を行う時間が昼であればさらに参加者は増えたかもしれない。

多くの市民にも参加して欲しいとの思いから第 54 回ではシャトルバスの運行を初めて行った。無料シャトルバスがあると便利であるという声もあったので、第 55 回以降もぜひ続けていって欲しい。バスの状況は、バスに乗客がいっぱいであったときもあればあまり乗客がいなかったときもあったということで、今後は運行状況についてバス会社との調整も必要になってくるだろう。

ボランティアについてだが、第 54 回も前回に引き続きボランティアの方に協力をいただいた。事前に行った説明会で、きちんとボランティアの方に仕事内容の説明は出来たと思う。ボランティアの方々には、当日急にやってもらうことになった仕事もしてもらい、本当に感謝している。

部署部門

総務...「できることをできるうちに」を心がけ、会場・教室の貸出申請、委員の当日シフト作成等、期限を守り、スムーズに行うことができた。

財務...前回よりも自治会配分金を増額し、シャトルバスの運行や、企画の賞品を充実させることができた。

広告...目標金額を達成した。担当する人数は増えたが、協賛企業の拡大には限界がきていると感じる。

広報...横断幕、ポスターによる宣伝活動など、例年好評を得ている広報活動を継続して行った。委員の人数の増加に伴い、今回はより広報活動に時間と人員を割くことが可能になった。今後はより広範な活動ができるようになるだろう。

出店...過去最高の出店団体数を実現した。また、例年のような電気に関するトラブルもあまり多くなく、大きな問題点はなかった。テントの貸し出しについて、もたついてしまった部分は改善の余地がある。

装飾...従来どおりの装飾のほか、天井からのつり装飾など、今までに無い装飾も試みた。人員と少しの予算で改善できる部署なので、第 55 回の取り組みに期待したい。

最後になりましたが、自治会執行部、体育常任委員会、音楽芸術団体連合会の皆様、そして第 54 回緑丘祭に協力していただいた皆様には本当に感謝しています。深くお礼を申し上げます。今年度の 6 月末に開催される第 55 回緑丘祭もどうぞよろしくお願ひ致します。

第54回 緑丘祭実行委員会 決算 ('06.5.1~'07.4.30)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	¥77,195 -	<総務部>	
自治会配分金	¥2,469,000 -	シャトルバス代	¥100,000 -
ランチパーティ収入	¥67,810 -	事務局費	¥119,884 -
ビアパーティ収入	¥149,760 -	通信費	¥39,700 -
広告収入	¥809,000 -	パンフ代	¥474,915 -
寄付金	¥73,000 -	情報宣伝費	¥88,448 -
Tシャツ収入	¥64,000 -	装飾費	¥116,190 -
環境対策費・容器収入	¥36,975 -	Tシャツ制作費	¥63,000 -
銀行利息	¥87 -	うちわ制作費	¥59,850 -
		レンタル代	¥722,299 -
		環境対策容器	¥46,767 -
		環境対策出店	¥8,608 -
		学園祭保険料	¥37,970 -
		★総務部合計	¥1,877,631 -
		<企画>	
		開祭式	¥35,700 -
		ランチパーティー	¥112,714 -
		上村クイズ	¥7,155 -
		スポーツ大会	¥14,063 -
		ビアパーティー	¥251,655 -
		アブノーマルチェック	¥4,997 -
		オープニング	¥3,000 -
		駅伝大会	¥34,964 -
		どーこだ!?	¥4,045 -
		流しそうめん	¥37,558 -
		早食い	¥7,138 -
		カラオケ大会	¥10,000 -
		坂玉運動会	¥8,400 -
		地味企画	¥8,109 -
		ミスター商大	¥20,155 -
		花火大会	¥300,000 -
		夜イベ	¥32,812 -
		腕相撲	¥8,430 -
		よさこい	¥15,270 -
		芸能人	¥718,812 -
		昼イベ	¥8,375 -
		絵画展	¥1,575 -
		クロスワード	¥4,706 -
		わんぱーく	¥5,124 -
		あなたの祭多笑	¥1,469 -
		実行委員を探せ!	¥4,399 -
		★企画合計	¥1,660,625 -
		★次期繰越金	¥208,571 -
★収入合計	¥3,746,827 -	★支出合計	¥3,746,827 -

2007年 4月30日

第54回 緑丘祭実行委員会
 委員長 中村 幸穂
 財務 藤田 翔子

第 55 回緑丘祭実行委員会活動方針

第 55 回緑丘祭実行委員会
委員長 上村 佳弘

第 55 回緑丘祭のテーマは「FIRE 55」である。55 回という節目であり、参加する全員が燃えたぎる炎のように熱くなってほしいという願いをこめてこのテーマにした。会場に来てくださった方が、楽しかったと思えるように委員全員で努力していきたい。

- 目標
- 1、「第 55 回」という個性を出す企画作り
 - 2、来場者の拡大

1、「第 55 回」という個性を出す企画作り

今年度は、どれだけ今までとは違う個性を出せるかということ念頭に置いた。具体的には、スタンプラリーやビンゴ大会、クイズ大会のように会場に来ている方のほとんどが参加できるような企画や、来た方が気軽に参加できる企画などを行う。このことによって、商大の学生のほかに、地域の方にも参加していただくことを期待している。また、今年度は商大OBの方々の絵画会「丘美会^{きゅうびかい}」による絵画展や、小樽商業高校吹奏楽部による演奏、商大の取り組みや歴史を紹介する商大展など、文化的で教養が身につくような企画もする。

2、来場者の拡大

今回は、広範囲から来場者を集めたいと考えている。地元小樽の方の来場を増やすのはもちろんのこと、多くの商大生が住んでいる札幌への宣伝も精力的に行う。具体的には、テレビ・ラジオへの出演を今までより増やしたり、北海道大学の大学祭実行委員会との連携を考えている。

また、子供向けの企画を昨年よりもパワーアップし、今年は 3 号館内に子供が遊べる部屋を設ける。昨年、運行して好評であった小樽駅と商大を

結ぶ無料シャトルバスを、今回も運行する。シャトルバスの運行によって、小樽市民の方や札幌から来た方などより多くの方に来ていただきたい。また、バス車内の広告スペースを活用して祭の宣伝をし、より一層祭のことを知っていただけたらと思う。

また、毎年来場者の多くの方から好評である流しそうめんや小樽市内のチームによるよさこいソーランといった企画も前回に引き続き行う。商大構内の坂を利用した本格的な流しそうめんや、迫力のある演舞を実際に肌で感じてもらいたい。

近年、楽しい祭の中で良識に欠けた行動によって祭の運営に支障が出ていることがある。祭はみんなが楽しむことが目的である。そのような行動によって、支障が生じるのは大変遺憾である。今回そのような行動が発生した場合には、処罰を課すことを検討している。全員が楽しめる祭にしていくために、良識ある行動をしてもらいたいと思う。

最後に、自治会執行部、体育常任委員会、音楽芸術団体連合会の皆様には第55回緑丘祭へ、前回以上に協力していただきたいと思っております。全団体に力を合わせて、第55回緑丘祭を成功させたいと思っています。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

第55回 緑丘祭実行委員会 予算案('07.5.1~'08.4.30)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	¥208,571 -	<総務部>	
自治会配分金	¥2,411,000 -	シャトルバス代	¥100,000 -
広告収入	¥800,000 -	事務局費	¥120,000 -
寄付金	¥73,000 -	通信費	¥35,000 -
ランチパーティー収入	¥50,000 -	パンフ代	¥500,000 -
ビアパーティー収入	¥100,000 -	情報宣伝費	¥100,000 -
環境対策費・容器収入	¥35,000 -	装飾費	¥122,000 -
Tシャツ収入	¥60,000 -	Tシャツ製作費	¥60,000 -
		うちわ製作費	¥70,000 -
		レンタル代	¥760,000 -
		環境対策容器	¥45,000 -
		環境対策出店	¥10,000 -
		学園祭保険料	¥50,000 -
		★総務部合計	¥1,972,000 -
		<企画部>	
		開祭式	¥7,000 -
		ランチパーティー	¥120,000 -
		スポーツ大会	¥10,000 -
		feeling good	¥8,000 -
		クイズごった煮	¥13,000 -
		ビアパーティー	¥255,000 -
		とっとこ×Oクイズ	¥5,000 -
		駅伝大会	¥30,000 -
		流しそうめん	¥50,000 -
		こだまずもう	¥15,000 -
		おやこ☆うんどうかい	¥10,000 -
		よさこい	¥10,000 -
		カラオケ大会	¥10,000 -
		花火大会	¥300,000 -
		夜イベ	¥30,000 -
		プラス	¥8,000 -
		講演会	¥3,000 -
		芸能人	¥670,000 -
		THE BINGO	¥20,000 -
		閉祭式	¥2,000 -
		MATSUI55	¥2,000 -
		スタンプラリー	¥12,000 -
		商大展	¥5,000 -
		子供の王国	¥5,000 -
		つなげてポン	¥2,000 -
		リサイクルさんいらっしやい	¥1,200 -
		あの人は今	¥1,000 -
		わたあめ	¥10,000 -
		★企画部合計	¥1,614,200 -
		★パソコン購入費	¥61,000 -
		★予備費	¥90,371 -
★合計	¥3,737,571 -	★合計	¥3,737,571 -

2007年5月24日

第55回 緑丘祭実行委員会
 委員長 上村佳弘
 財務 平澤杏里

2006年度ゼミナール協議会 活動総括

2006年度ゼミナール協議会

代表 吉田 源

1. 総括

2006年度のゼミナール協議会では、3年次から新しくゼミを選択する2年次生に対するゼミ選択のバックアップと、3・4年次ゼミ生の交流の場を提供すること、既存の連絡体系の抜本的な改革を目的に活動してきた。具体的な活動としては、例年通り、ゼミナール間交流レクリエーション、ゼミナール紹介本の作成、ゼミナールオリエンテーションの開催、インナーゼミナール大会の開催を行った。2005年度同様、要所において運営上の人員不足が露呈したが、少数の役員間で定期的にミーティングを行うことによって、少人数ながらも、例年に比べて機動力のある運営を行うことができた。2007年度は、前述の各種イベントにおける臨時役員等の増員によって改善する必要があると考えている。

また、既存の連絡体系の抜本的な改革についてだが、ゼミナール協議会のメールアドレスを作成し、各ゼミ幹事の名簿をパソコンで一括に管理し、連絡事項がある際は、適宜メールを一括送信できる連絡体系を確立することができた。各ゼミ幹事の連絡先をデータベースにすることによって、次年度への引継ぎに費やす手間を最小限に止める等のメリットもあり、抜本的な改革は成功に終わったものと確信している。

2. 個別行事報告

ゼミナール間交流レクリエーション

例年通り、ゼミナール間の交流をはかるという目的のもと、ボーリング大会を開催した。2006年度は、参加者が389人と前代未聞の多数に及んだため、ボーリング場のキャパシティを越え、異例の二週連続開催を余儀なくされた。参加者が飛躍的に増加したことは大いに喜ばしいことだが、運営上の人員不足が露呈した点においては、2007年度以降の改善が必須であると考えている。今後は、多数の参加者を円滑かつ効率的に捌く運営形態を生み出してほしい。

ゼミナールオリエンテーション関連行事

2年次生のゼミ選択をより行いやすくするために、ゼミナール紹介本の作成、ゼミナールオリエンテーションの開催を実行した。ゼミナールオリエンテーションについては、学務課や各ゼミとも連携し、2006年度から採用している各ゼミ幹事の連絡先のデータベースを活用し、各ゼミの幹事と円滑に連絡を取り合うことができた。2005年度の反省であったオリエンテーション中の時間のずれは、時間厳守を事前に呼びかけ、役員による強制終了措置を以って解決することができた。例年の問題点として、ゼミナールオリエンテーションへの急な参加、ゼミナール紹介本の作成における締切日の不遵守が挙げられる。2006年度は、締切日を過ぎたゼミナール紹介本の原稿については、一切受理しなかつ

た。これは、ゼミナール協議会から各ゼミに対して、締切日から相当な猶予を持って連絡したからである。そのため、こちら側に落度は無く、今後も続けてほしい。

インナーゼミナール大会

2006年度は、参加ゼミ数は昨年度と変わらなかった。昨年度と比較して見学者が少なかった。この点は、学内への告知にも重点を置くべきであったと考えている。2005年度の反省点を生かし、大会中のパソコンの故障や時間が大幅に押す等の事態はなかった。2006年度は、人員の不足を感じることはなく、役員ひとりひとりの柔軟な対応と大会前の念入りな運営方法の検討が功を奏したとあって過言ではない。しかし、より多く参加ゼミを増やすためには、もっと早いうちから各ゼミに呼びかけたり、ゼミや先生に直接的に参加を促したりしていく活動が今後とも必要になるだろう。

最後に、ご協力をして下さった、学生自治会をはじめ、役員である学生や教員、ゼミなど、たくさんの方々に深くお礼を申し上げます。今後ともよろしくお願いします。

2006年度ゼミナール協議会 活動決算報告書

(2006. 5. 1～2007. 4. 30)

収入		支出	
前年度繰越金	¥14, 714-	事務局費	¥441, 805-
自治会配分金	¥160, 000-	《内訳》	
ゼミ間交流レク参加費	¥279, 500-	ゼミ間交流レク	¥380, 809-
以下余白		ゼミオリ関連行事	¥0-
		インゼミ大会	¥60, 996-
		雑費	¥0-
		次期繰越金	¥12, 409-
収入合計	¥454, 214-	支出合計	¥454, 214-

《ゼミ間交流レク内訳》

ゲーム代(シューズ代込)	¥279, 500-
コピー用紙代	¥1, 204-
雑費	¥105-
商品代	¥100, 000-
合計	¥380, 809-

《インゼミ大会内訳》

コピー用紙代	¥1, 596-
参加賞代	¥59, 400-
合計	¥60, 996-

2007年4月30日

ゼミナール協議会

代表 吉田 源
会計 川端 祐佳子

* 注意事項 *

- ①ゼミオリ関連行事にはゼミナール紹介本の作成があるが、その製本代は学生自治会と学校側から支出されているため、ゼミナール協議会からの支出は一切なかった。
- ②『緑丘アカデミア』の製本代は、緑丘会(商大OB)から支出されている。
- ③ゼミ間交流レク参加費として配分された10万円の使途変更について
今年度のレク参加人数が例年の3倍近くになったため、当初予定していたシューズ代の肩代わりとして使用できなくなった。そのため、参加学生にシューズ代・ゲーム代両方を負担してもらう代わりに、配分金還元として、10万円を商品代とした。

2007年度ゼミナール協議会活動方針

2007年度ゼミナール協議会

代表 小野 誠

1. 全体の活動方針

2007年度の活動方針は、やはり毎年の課題である「役員の選出」と「ゼミナール協議会の認知度における問題」を改善していきたい。2007年度は、2006年度に確立された各ゼミ幹事の名簿のデータベースを利用することで、前年度と同じようにゼミナール協議会と各ゼミ幹事との円滑な相互連絡が可能となっている。このことから、2006年度よりも柔軟に組織を運営することができ、上記の問題の改善に解決策を講じると共に、ゼミナール協議会をより結束力があり全ゼミナールを統括できる機関となれるように運営していきたいと考えている。また2006年度に引き続き、役員との定期的なミーティングを行うことによって、役員一人ひとりが主体性のある構成員となり、ゼミナール協議会の更なる飛躍を実現できるよう努めたい。

2. 行事に対する活動方針

ゼミナール間交流レクリエーション

例年通り、同一ゼミナール内、及び異なったゼミナール間の交流を深めることを目的として行う。具体的には、2007年度もボーリング大会を予定している。2007年度は、2006年度と同様に400人近い参加者を集め、大会当日のゲームの進行をスムーズに行えるよう配慮していきたい。そのためにも2006年度の改善点である、円滑かつ効率的な大会運営の入念な計画立てと役員数の補填に重点を置くつもりである。

また、ルールの改善については、事前にアンケートを行う等によって、更なる内容の向上に努めたい。

ゼミナールオリエンテーション関連行事

例年通り、新たにゼミナールを選択する2年次生に対して、ゼミナールについての情報を提供するために行う。前年度同様、ゼミナール紹介本の作成・ゼミナールオリエンテーションの開催を予定している。ゼミナール紹介本については、昨年度の反省を生かし、告知を早めに行い、原稿の締切日を遵守させる。またアンケート内容も、2年次生がより多くの情報を得られるように改善するつもりである。

インナーゼミナール大会（ゼミ研究発表会）

主な目的はゼミナール間の交流と、日常のゼミナールにおける研究を公にするための場の提供である。2007年度はさらに新規の参加ゼミナールや見学者が増えるように、2006年度よりも早めに告知を行い、さらに2006年度の反省点である学内への広報活動も積極的に行う必要がある。このことに関して参加ゼミナールを増やすために、各ゼミナールへ直接的に参加を促すと共に、各ゼミの教官に対しても充分に告知を行う

予定である。またどのゼミナールでも気軽に参加できるよう、インナーゼミナールの認知度を向上させる必要もあるだろう。そのためにも、事前の広報活動を怠らず、大会当日においても昨年度と同様の入念な事前準備を行う必要がある。

2007年度ゼミナール協議会 活動予算案

(2007.5.1～2008.4.30)

収入		支出	
前年度繰越金	¥12,409 -	事務局費	¥250,000 -
自治会配分金	¥160,000 -	《内訳》	
ゼミ間交流レク参加費	¥100,000 -	ゼミ間交流レク	¥200,000 -
以下余白		インゼミ大会	¥50,000 -
		活動予備費	¥22,409 -
収入合計	¥272,409 -	支出合計	¥272,409 -

2007年5月24日

ゼミナール協議会

代表 小野 誠
会計 松浦 良司

*** 補足 ***

1. ゼミ間交流レクについて
 景品(商品券など)、参加費の一部にあてる。
 ゼミ間交流レク参加費とは、各自が負担するゲーム代のことである。
2. 例年は、ゼミナール紹介本の製本代は、学生自治会と大学側の支出となっている。
3. インゼミについて
 チラシ・レジユメの用紙代、参加賞などの費用にあてる。

 ※『緑丘アカデミア』の製本代は、緑丘会(商大OB)から支出されている。
4. 活動予備費について
 事務局費が不足した際の補助費、会議で使用する用紙代などに使用する。